金属労協・第 62 回定期大会　議長挨拶

2023 年 9 月 5 日

全日本金属産業労働組合協議会
議長　金 子　晃　浩

金属労協・第 62 回定期大会の開催にあたり、執行部を代表してご挨拶申し上げます。

本年の大会は、新型コロナウイルス感染症が 5 月に「2 類相当」からインフルエンザと同じ「5 類」に移行されるなど、感染拡大もおさまってきていることから、Web 会議システムを活用しつつ代議員は基本的に会場参集とさせてもらいました。こうしたスタイルが今後のスタンダードになっていくような気もしますが、次回は傍聴者も含めてみんなで会場で顔を合わせられたらいいなと思います。

本日は大変ご多忙のところ本大会にご来賓として、「連合 芳野友子会長」、海外を代表し「インダストリオール本部 松﨑寛書記次長」にご臨席賜りました。後ほどご挨拶いただきますが、まずは皆さんの盛大な拍手で感謝と歓迎の意を表したいと思います。

さて取り巻く情勢ですが、世界経済はパンデミックが鎮静化し、ロシアによるウクライナ侵攻に伴う急激なエネルギー価格の高騰も鈍化傾向となり、世界全体としては緩やかな回復が続いています。しかし一方で、欧米などを中心にインフレ傾向が続き各国政府も金融引締め策に乗り出しています。またコロナ禍から急回復を遂げた中国でも、足元では輸出の伸び悩み、個人消費の落ち込みなどにより景気が減速してきています。

そしてもう 1 点注目すべきなのは、インドと新興国を中心とするいわゆる「グローバルサウス」です。インドは本年半ばに中国を抜いて人口世界一になるとも言われ、また昨年 12 月にG20 議長国に就任して以降、このグローバルサウスを経済や環境など外交面でけん引しようとする姿勢が目立っています。欧米×中露対立の中での第三極としての存在感は大きいものがあります。

日本経済においては、新型コロナウイルスによる影響から脱し、個人消費や生産・輸出入なども徐々に回復傾向にあり、実質 GDP 成長率は 2022 年度に 1.4%と増加し、2023 年度も政府見通しでは 1.3%を見込むなど、緩やかな伸びを続けています。今後とも二大経済大国である米中による覇権争いが過熱する中で、両国を中心とする経済政策や動向が日本経済に与える影響は極めて大きくなってきていることから、両国はじめグローバル経済の動向には引き続き注視が必要です。

金属産業を取り巻く足下の状況は、昨年までの厳しい環境からは脱したとは言え、依然として円安の進行や物価上昇傾向にあり、また半導体等の資材や原材料不足の長期化、更には北朝鮮問題や台湾有事などの地政学的リスクを抱えるなど、安定した回復軌道に乗せていくためにはまだ多くの課題が山積しています。

そして金属産業は今、ＤＸ・ＧＸなど将来に向けた課題に直面している大変大きな変革期を迎えています。今後も激化するであろうグローバル競争に打ち勝ち、日本でモノづくり産業をこれからも維持・発展させていくために、金属労協に集う200 万人の仲間の英知を結集し、必ず乗り越えていきたいと思います。

さて本大会は新たな 2 年 1 期の節目にあたります。これまでの取り組みの評価と課題をもとに現在の情勢や変化点を踏まえ、あらためて運動方針を策定しました。具体的な方針については後ほど梅田事務局長から提案しますので、私からは課題意識を 3 点申し上げておきたいと思います。

〈国際労働運動への貢献〉

1 点目は「国際労働運動への貢献」についてです。

本年 6 月に南アフリカのケープタウンにてインダストリオール中間政策会議が開催され、JCM からも総勢 14 名が出席しました。会議の詳細は後ほど石原事務局次長からご報告しますが、個人的には、基調講演をしていただいた元スウェーデン首相であるステファン・ロベーン氏の言葉が印象的でした。「格差は全世界的に大きな問題であるが、我々がグローバルな力を持てば、安い工場への移転は無くなるはず。世界中の仲間とともにディーセントな社会を作っていこう！」と。これは、労働界における国際連帯の重要性とともに、目指すべき運動の方向性を端的に指し示した言葉と理解しました。

またアジアでは、2021 年の軍事クーデターによってミャンマーの民主主義が脅かされ、市民への弾圧、人権侵害が起きている現状についても認識しておく必要があります。

健全なグローバル化の発展が健全な市場を生み出し、それが世界中の不安定雇用や格差拡大の抑制に繋がるものと考えています。こうした社会を実現するために貢献していくことは、相対的に影響力の低下しつつある日本にとっても大変メリットが大きいものと思います。むしろ日本の位置付けが低下しつつある今、日本の労働界、とりわけ国内外に影響力を保持している我々JCM の運動が存在感を示していくことは、日本のプレゼンスを維持することにも繋がるものと信じています。

一方で本年は、インダストリオール副会長でありアジア太平洋地域の共同議長を務めています髙倉さんの交代のタイミングとなる大きな変化点を向かえます。また為替によるインダストリオール会費急騰に伴うJCMの財政課題も認識しておく必要があります。しかし我々としては、先の趣旨に鑑み、世界中の金属産業の仲間が集うインダストリオール・グローバルユニオン、そして本日ご臨席の松﨑書記次長とも連携・連帯を図りつつ、JCM/金属労協としての役割と責任をしっかり果たしていきたいと思っています。併せて、松﨑さんの今後ますますのご活躍にも期待しています。

〈人権ＤＤの推進〉

2点目は「人権ＤＤの取り組みの推進」です。

この取り組みは、金属労協としては 2022 闘争時に初めて方針の中で掲げました。そして今期は「人権デュー・ディリジェンスにおける労働組合の対応のポイント」を提示しつつ、各構成組織での対応を促進し、今次闘争でも積極的な労使の協議を呼び掛けるなど、取り組みの前進を図るよう推進してきたところです。このように、金属労協は人権 DD に関して、労働界の中でもかなり積極的に推進してきたと自負しているところです。

しかしながら、世界を見渡してみれば、日本の取り組みは決して先行しているわけではありません。先述のインダストリオール中間政策会議の中でも、これについて活発な論議がなされていましたが、とりわけ人権 DD を罰則付きで義務づける法制化のされた独など、欧米との取り組み進度の遅れを確認することができました。5月の G7 サミットでも、この点を問題視されていたのはまだ記憶にあるのではないでしょうか。

また先日開催しました「国内労使セミナー」においては、「外国人技能実習生」の問題をテーマとして挙げました。この問題は単なる外国人の労働問題ではなく、日本企業が日本で起こしている人権問題であるという本質をあらためて認識すべきです。

このように、人権 DD に関する事案は国内に居ても身近に起こり得るものであり、誰にとっても決して他人事ではありません。政府も企業も、そして労働組合としてもこの課題を自分事として認識し、未然防止に向けて積極的に対処していく必要があります。来期はこうした認識の尚一層の浸透・共有を図り、取り組みを前進させていきたいと思います。各構成組織の皆さんも更なる対応をお願いします。

〈2024 闘争に向けて〉

3点目は「来春2024闘争に向けて」です。
今次2023闘争の総括については、後ほど中田事務局次長から報告をしますが、私からも関連して少し触れておきたいと思います。

今次闘争では、産業・企業での人材確保が喫緊の課題となっている中、急激な物価上昇による生活棄損への対応が労使の共通認識となり、結果、全体としてはここ数年にない大幅な賃上げを獲得するなど、大変大きな成果を挙げることができました。またこうした成果は、非正規雇用で働く未組織の仲間や取引先の従業員への波及、更には日本経済好転への機運作りにも貢献できたと考えています。まさに名実ともにＪＣ共闘の役割を発揮できたものと思っています。こうしたことは、各産別の皆さんが単に物昇だけの論議に留まらず、産業・企業の課題を共有しつつ、「人への投資」の必要性について根気強く主張してきた成果の表れだと思っています。あらためて皆さまのご尽力に感謝申し上げます。

さて来春に向けた方針策定はまだこれからですが、少なくとも共有しておきたいのは、こうした取り組みを決して本年単発で終わらせてはいけないということです。日本の賃金水準を更に引き上げていくことで日本経済を軌道に乗せ、人材を確保し産業・企業の国際競争力を維持・向上させていく必要があります。そのためには、本年の交渉を通じて労使で共有できたこうした認識や価値観を、引き続き持てるような経済環境をつくり、職場での成果を上げ、会社の理解が深まるように取り組んでいかなければなりません。このことは強く申し上げておきたいと思います。

〈結び〉

結びに、各構成組織の皆さんの中には、今期をもって退任される役員もいらっしゃると承知しています。これまでのJC運動の推進にご尽力頂きましたことに心より感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

さて、金属労協は来年結成60周年の節目の年を向かえます。金属産業は今、時代の大きな転換期にありますが、我々は次代に向けた労働運動を構築していかなければなりません。この節目を契機に更なる成長を果たせるよう、これからも金属労協に集う200万人の仲間とともに運動を推し進め、果敢に挑戦し続けていきたいと思います。

皆さんの引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げ、また本大会における皆さんの真摯で活発な論議を期待して、冒頭の挨拶とさせていただきます。ともに頑張りましょう！

（約3800文字≒15分）